

平成29年5月22日
於
府中市役所北庁舎3階第5会議室

第3回

府中市廃棄物減量等推進審議会会議録

府中市生活環境部ごみ減量推進課

第3回府中市廃棄物減量等推進審議会会議録

- 開催日時 平成29年5月22日（月）午後7時00分～午後8時52分
- 開催場所 府中市役所北庁舎3階第5会議室
- 出席委員 10名
宮脇健太郎会長、志水清隆副会長、吉川澄夫委員、武野純子委員、谷澤ミツ子委員、土方文男委員、松下達郎委員、山谷修作委員、吉田陸子委員、渡辺信子委員
- 欠席委員 3名
大堀隆康委員、馬場利之委員、松林健一委員
- 出席説明員等
間宮生活環境部長、佐々木ごみ減量推進課長、田口ごみ減量推進課長補佐、桑田ごみ減量推進課副主幹、山下ごみ減量推進課3R推進係長、中川ごみ減量推進課指導係長、佐藤ごみ減量推進課指導係主査、山本ごみ減量推進課管理係主任
中外テクノス㈱ 松岡氏、石津氏
- 議事日程
 - 1 諮問事項について
 - (1) 素案について
 - (2) 基本理念・基本方針及び将来予測・目標値の設定について
 - (3) 次回協議に向けて
 - 2 その他

午後7時00分開会

○**会長** 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまより、第3回府中市廃棄物減量等推進審議会を開催いたします。

まず、本日の委員の出席状況について、事務局より報告をお願いいたします。

○**事務局** 本日は、委員13名のうち3名の方が欠席されるというご報告をいただいております。10名の委員のみなさまに出席いただいておりますので、委員過半数の出席でございます。府中市廃棄物減量等推進審議会運営要綱第5第2項の規定により、本日の会議は有効に成立しておりますことをご報告いたします。

○**会長** 続きまして傍聴の希望について、事務局よりご報告をお願いします。

○**事務局** 本日は、傍聴の希望の方はいらっしゃいません。

○**会長** 本日は傍聴希望の方はいらっしゃらないということですので、会議を進めていきたいと思っております。続きまして、本日の配付資料について、事務局より確認をお願いいたします。

(事務局 資料確認)

○**会長** 続きまして、次第の議題の中に入る前に、前回の議事録の確認をさせていただきたいと思っております。議事録につきましても、先ほどの資料のさらに前に、郵送で皆様のところへ送付させていただいておりますけれども、事務局、何か事前に修正の連絡はございましたでしょうか。

○**事務局** 修正につきまして、委員より、若干簡易な修正でございますけれども、ご連絡をいただいておりますので、ご了承をいただきたいと思います。

○**会長** それでは、その他、修正を希望するような点はございましたでしょうか。特によろしいでしょうか。

(なしの声あり)

○**会長** それでは、前回議事録について、一部手が加わりましたが、簡単に修正をするところがございますが、その内容で確定させていただきたいと思っております。今後、事務局において、市政情報公開室、市のホームページ等で公開をしていくことになっておりますので、ご了承ください。

【諮問事項について】

○**会長** それでは、これより次第に則って進めさせていただきます。

まず、次第の「1 諮問事項について」というところでございます。今回は、(1)、(2)、(3)と3つございます。今日、配られた次第でございますが、素案についてということで廃棄物処理基本計画の素案の関連のお話と、それから2番目が「基本理念・基本方針及び将来予測・目標値の設定について」と、あと3番目が「次回協議に向けて」ということになってございます。それぞれについて、事務局にご紹介いただいて、それから委員の皆様からご意見を伺いたいと思っております。

まず1つ目の「素案について」ということで、事務局より説明をよろしくお願いたします。

○**事務局** 次第の「1 諮問事項について」の(1)素案についてという部分について説明をさせていただきます。ここでは、お手元にごございます資料1番と2番の2つの資料を説明

させていただきます。

「素案について」ということなのですが、資料の2番が素案に当たっておりますが、その素案の説明の前に、資料の1をまずご覧いただきたいと思えます。資料の1ですが、これは、平成28年度の家庭ごみの「組成分析調査の結果報告書」でございます。前回、2月に審議会がございましたが、そのときには平成27年度版、1つ前の資料を説明させていただいておりましたが、今回はその資料の最新版ということでございます。前回の内容と大きな変動はございませんが、内容について簡単にご説明をさせていただきます。

資料1の最後のページです。最後の「まとめ」でございます。一番上の「燃やすごみ」のところの文章を見ますと、「燃やすごみの調査結果では、厨芥の割合が最も高い値となっており、地区によっては50%以上を超える割合となっている。厨芥類は水分を多く含んでいるため、水きりによる排出の徹底を行うことで、ごみの減量に大きく効果が表れると考えられる」とあります。前回と同じく水切りが必要だということがここでも読み取れると思えます。

次に、真ん中の「燃やさないごみ」のところなのですが、文章2行目から読みますと、「宮西町1～4丁目では燃やさないごみの中に含まれる資源の排出割合が60.16%と高くなっている。宮西町1～4丁目は市の収集に排出している事業系ごみを対象としていることから、ごみ収集の際に排出指導の実施をすることにより分別協力率の向上効果を得られることが考えられる」とあります。事業所の多い地域では、燃やさないごみへの資源ごみの混入が目立つので、この是正に向けて事業所に働きかけることが必要だということが言えるということです。

最後に一番下、「容器包装プラスチック類」ですが、文章1行目後半から読みますと「容器包装プラスチックの排出が全ての地区で85%以上となっており、分別協力率が高くなっている」ということで、比較的分別が難しいと言われている容器包装プラスチックなのですが、実態としては、市民の皆様はよく分別をしてくださっているということが言えると思えます。前回の資料では、ここは80%だったのですが、今回は85%とさらに増えていますので、まさに分別を頑張らせていただいている実態が見えるかと思えます。以上が資料1の説明なのですが、水切りの徹底、事業所への排出指導が必要という点で、前回と同じ傾向が出ているということが言えると思えます。

続きまして、資料2、こちらは素案なのですが、こちらをご覧いただきたいと思えます。「府中市一般廃棄物処理基本計画（素案）」です。今回は「第1章から第3章まで」ということで、全体の前半部分にかかる素案ということでございます。

まず、1ページを開いていただきまして、目次をご覧いただきたいと思えます。この計画は6章立てで構成されています。第1章は「計画の基本事項」、第2章は「府中市の概況」、第3章は「ごみ処理の現状及び課題」、第4章は「ごみ処理基本計画」、第5章は「ごみ処理基本計画の推進に向けて」、第6章は「生活排水処理基本計画」ということになっています。今回は、全6章のうち第3章の「ごみ処理の現状と課題」までを素案としてお示ししております。具体的な施策などを内容とします第4章以降の範囲につきましては、次回の第4回廃減審で素案をお示しする予定でございます。

それでは、まずこの素案の4ページをお開きいただけますでしょうか。下のほうに「計画期間」ということが書いてありますが、平成30年度から39年度までの10年間を計画期

間といたしますという内容です。そして、その計画期間内には、当計画の上位計画に当たります「第6次府中市総合計画」、あとは「第2次府中市環境基本計画」、これらの目標年度が入ってきておまして、今回つくる計画についてはこれらの上位計画との整合性を図ってまいりますということです。

そして、次に第3章「ごみ処理の現状及び課題」の内容を中心に見ていきたいと思うのですが、大分飛びます。17ページをあけていただいてもよろしいでしょうか。こちらの(2)収集量の実績のところ「ア ごみ量」というのがあります。文章を読ませていただきますと、「本市のごみ量(燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、事業系ごみ)の推移は図表3-7のとおりです」。少し飛びまして、「総合計画に掲げた『10年間でごみの50%削減』の目標は、このごみ量を用いており、平成25年度までに2万5,343トンの減量をしましたが、削減率は37.1%と達成には至りませんでした」とあります。

そして、次の18ページにあります図表を見ていただきますと、平成25年度のところを見ますと4万3,052トンとなっていますが、この数字がちょっとこの図表には記載がないのですけれども、平成13年度の数字と比較して平成25年度の数値が削減率37.1%だったということです。

次に、同じ18ページの「イ 総ごみ量」というところがございます。そちらの文章を読ませていただきますと、「本計画では、燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、有害ごみ、事業系ごみに資源を加えた量を総ごみ量と呼びます」。少し飛びまして「また、平成23年度を基準年として、平成26年度から29年度の4年間で『市民1日1人あたりの総ごみ量50グラム削減』を掲げており、平成27年度は631グラム/人日となっています」とあります。ここにつきましては、ちょっとその資料印刷後に数字が出たのですが、最近、平成28年度の実績値が出ましたので、後日そこは修正する予定ですが、この最後の部分を「平成28年度は617グラム/人日となっています」に修正する予定です。1年が経過しまして631が617まで落ちてきたということですね。

19ページの図表3-9についても、28年度に617グラムというものを後から追記いたしますが、595グラムの目標に対してはあと1年でさらに22グラム減量することが必要となっております。

次に、またページを飛びまして、33ページをご覧くださいませでしょうか。こちらに「第3節 ごみ処理基本計画見直しに向けた課題」がございますが、大きく5つの課題を掲載してございます。まず、33ページには「1 排出段階における課題」と書いてあります。ちょっと飛びまして40ページに飛びますと、「2 収集運搬に関する課題」、「3 中間処理に関する課題」というものが書いてあります。最後に41ページには「4 最終処分に関する課題」、「5 廃棄物処理費用に関する課題」となっております。5個の課題があるということですね。

なお、33ページから始まります「1 排出段階における課題」が、課題の記載の大半を占めているという書き方になっています。この「1 排出段階における課題」の中身でございますが、まず33ページには(1)減量推移の鈍化という課題がございます。図表3-31によりますと、平成22年2月の「ごみ改革」によって、ごみ排出量が1年度で一気に14%も減ったということがあったものの、その後は減量推移が横ばいになっています。また、

図表3-32によりますと、平成27年度の631グラムからさらに「あと36グラム削減」しないと、「市民1人1日当たりの総ごみ量50グラム削減」の目標は実現しないということですが、ここには、平成28年度617グラムという実績を後から追記しますが、「あと36グラム削減」が「あと22グラム削減」に変更になるということです。いずれにせよ、ごみ減量の推移がかなり鈍くなっているという課題があります。

次に、34ページをご覧くださいなのですが、(2) 分別の徹底不足という課題があります。まず「ア 分かりにくい分別基準」ですが、「燃やさないごみ」と「容器包装プラスチック」については、アンケート調査において「困ることなく分別できる」と回答した市民の方の割合が低くなっておりまして、該当する分別区分や洗浄の程度などといった基準のわかりやすい解説や周知が必要だということです。

次に、「イ 資源物の混入」ですが、ごみ組成分析調査の結果を見ても、資源物の混入が顕著に出ているので、資源化可能なものについては、少量であっても適切に分別排出し、資源物の回収量の向上と資源化を進める必要があります。

最後に、36ページでございます。36ページには「ウ 減量化の徹底不足（厨芥類）」というものがございまして、厨芥の排出時の水切りが不十分であると考えられ、水切りを広く浸透させることで、さらなる減量の可能性がありますということです。

次に、同じ36ページなのですが、(3) 啓発・情報周知の不足という課題があります。市民アンケート調査の回答を見ると、20代から30代では、ごみの分別や3Rに対する関心が低く出ておりまして、また、本市への転入者は、この20代から30代の層が多いという現状がありますので、他部門と連携して転入者に対する啓発や情報の周知の徹底を行う必要があります。また、市が行っている多くの施策はいずれも認知度が50%以下となっておりますので、市民の参画を進めるためにもさまざまな取り組みの情報周知が不可欠ということです。

次に、38ページでございます。(4) 事業系ごみの資源化の推進という課題があります。事業系ごみにはその他雑紙も含む紙類やプラスチック類等の資源化可能物が多く混入しているため、事業系ごみの資源化の推進を進める必要があります。

次に、39ページですが、(5) 事業系ごみの分別、適正排出の推進という課題があります。事業系ごみは許可業者により処理施設へ搬入されていますが、排出事業者のごみ分別が不十分な場合があり、許可業者の自主的な分別排出の呼びかけだけでは事足りないため、行政側が指導・啓発を行う必要があります。

最後に、同じ39ページなのですが、(6) 新たに取り組むべき課題として、食品ロス削減に向けた取り組みを市民や事業者とともに積極的に取り組むことで、ごみの減量につながる可能性がございます。

今回の「素案」は、全体の前半部分「第3章」までの範囲で作成をさせていただきました。「第1章 計画の基本事項」というところでは計画の背景や目的、計画の基本事項などを述べております。「第2章 府中市の概況」におきましては、人口・世帯動向や産業動向、まちづくりに関する計画等について述べております。最後に「第3章 ごみ処理の現状及び課題」において、本市のごみ処理事業等に触れつつ「ごみ処理基本計画見直しに向けた課題」を述べる構成となっております。そして、具体的な施策等を内容とする第4章以降は、次回

の第4回廃減審で取り扱うこととなります。今回は素案の前半部分につきまして、皆様からご意見を頂戴できれば幸いです。

○**会長** ただいま説明をいただきました。その内容につきまして、事前に配布もされておりますが、ご意見やご質問がございましたらお願いします。

○**委員** 表記の仕方です誤字かなという感じのところはちょっとありましたので、まず、実質的なところに入る前に、ちょっと確認をさせていただこうかと思いますが、1つは、26ページです。図表3-23というのがありますけれども、これ、上が焼却処理を明示ですよ。それと同じようなのが書いてあるのですけれども、このところは中身がリサイクルプラザへの搬入量になっていると思います。31ページのところの一番下ですけれども、在宅医療廃棄物の「対象」方法とあります。これは誤字かなという気がするのです。ついでに言いますと、その後の「個別回答」となっているというの、ちょっとわかりにくいなという感じがします。

それから、やはり図表ですけれども、38ページの下の方の図表3-40です。これ「比較」とあるのですけれども、何の比較かがちょっとわかりません。ですので、これ事業系ごみ排出原単位ということなのでしょうけれども、ちょっとわかりやすく入れる必要があるかなという気がしました。

○**会長** ただ今の点は、表示間違い含めて表記が不足しているということでございますが、何かコメントございますか。

○**事務局** ありがとうございます。確認して修正させていただきます。

○**会長** その他ご意見もしくは質問などございましたら、続けてお願いいたします。

○**委員** 30代、40代の世代の人が入ってきて、それがいかにもごみ減量の邪魔をしているような表現というのはどうなのかなと。確かにそういうのはあるかもしれないのですけれども、府中市としてはそういう若い世代の人に、狭い視野ではなく、来てほしい。だからその表現はちょっと考えたほうがいいのかというの1点。もう1つは、ごみ処理にお金がかかっていますというのは事実です。逆にちゃんと分別をしていただいたら、リサイクルで、有価で引き取っていただいている、そういう場合がどのくらいあるのか、ぜひぜひ。そういうので市民の方に貢献いただいているのですよという何か。減らして、減らして、分別、分別してと言っても、日本人は真面目な方が多いから、基本はやってくださると思うのです。でも、これだけ貢献した金額があるのですよと、それだけ市民税が、無駄なものなくなるのですよというものがぜひ欲しいかなと、個人的に思いました。

○**会長** この点いかがでしょうか。

○**事務局** その点につきましては、ご指摘のとおり若い世代にお越しいただきたいというのは当然あるわけですので、そうした表現も当然検討をさせていただきたいと思っております。また、ただ今の経費の点につきましても、確かに多く出ていると思っておりますので、当然、歳入として有価で売っている部分等もかなりございますので、この点も見せられるような形で検討してまいりたいと思います。

○**委員** ぜひお願いします。有価のやつをこれだけきっちり分別していただいたら、これだけ戻ってきているのですよというのを、ぜひ見せていただいたら、モチベーションにきっと間違いなくなる。

○会長 数値はきちっと捉えているはずですから、明示することがよろしいのではないかと思います。

○委員 ごみ新聞というのが出ているのですよね、府中市のごみの現状の新聞。年3回でしたっけ。

○事務局 年2回です。

○委員 2回でしたっけ。あれに何か費用のことを書いてみてもいいと思うのですが、意外と皆さん新聞は見ないのですよね。

○委員 全然見ないです。

○委員 見ないと思いますね。広報に書いてあっても見ないのですよね。そのあたりをいかにこう、知ってはいるのですよ。ごみを減らさなければいけない、分けなければいけないというのは。カレンダーで、何曜日は何という、その日によって来ているから、分けようと思えば分けられるのだけれども、結局、朝忙しいから分けている暇なく、出かけなければいけないとかになってしまうので。前の日から出しておくわけにもいかないし、カラスが突ついたり、猫が突ついたりしますので、そのあたりが難しいかなと思います。集合住宅のほうで、何かきれいにしているところもある。個人宅のほうで汚いときもあるので、そのあたりは、何かもうちょっとどうしたらいいのかなというのがあります。お友達なんかにも結構言ったりして、うちはこれを使わないとかね。どうやってしているのと言ったら、うーんとか言う人は、多分、三角コーナーに入れているだけで、そのままです。1回1回をスーパーなんかでもらえる小さな袋、ビニールの袋に入れてしまっているから絞れない。水が出ない。だから出す前に穴を開けてこうしたらと言ったら、臭いから嫌だと。これから夏場になると、だんだん生ごみについては、多分相当な匂いが発生すると思うので。

あと、事業系のごみというのも、かなりごみ捨てなんかでも協力していかないと、ただ言っただけではだめなので。何か新たにまちが変わってきますよね、府中市も。そういう面でしっかりしておかないといけないなど。だから、結構若い人の転入というのですか、地方から来られる方も多いのだけれども、その辺で市役所に来たときに、ごみの分別の仕方とか、あと自治会なんかも自治会長がおられるなら、説明に行けばと言うけれども、多分みんな昼間の時間帯にいらっしやらないのですよね。だから広めていくのが難しい。

人口がかなり昔に比べて増えていますよね。昔、22万人くらいで人口は増やさないとか言っているときもあったのだけれども、今はもうそれよりはるかに多いし、大きな建物がどんどんできていますので、人口が増えているのですよね。あと高層のところなんかだと、ごみ出しというのが意外と難しいというのですね。流しにジャーとやったら出るとなってしまうのだったらあれなのかもしれないのですが、それをする下水道はどうなのかなと。

○会長 市に答えてもらうというよりは、今、ちょうどここに皆さんがいる委員の方に、今の状況を共有していただいて、今日の議論にさせていただくと。今、たくさん出ていて多かったのですが、広報関係が多かったと思うのですね、今、ご指摘があったのは。このあたりは、今日のところは3章までで、実際、今まではどうですかという話なのですけれども、4章以降のところは、今、委員がおっしゃっていただいたところを、今後どういうふうに変えていくか。広報のやり方とか、連絡がつかないとなかなか情報が伝わってこないとかということ。そんなことは、市のほうももちろんなのですが、今回、我々もここで今後どうい

うことをしていくのかというのを書き込んでいくというところに、ぜひ項目として挙げていて。具体的にそれができるかどうかというのは、また少しずつ考えていくと、全部が全部できるわけではないかなと思いますので。

ちょっと若い方の話はなかなか難しいというところと、逆に、保守的な感覚ですけども、40くらいになると難しいかもしれませんが、比較的本当に若い子は、実は小学校とかの環境教育がここ15年くらい続いているので、多分25とか30前後くらいまででしたら、多少は、分別とかは小さいころからやり始めている世代なのではないかなと。ですので、ちょっと期待している部分もあるので。まだわからないですけども。

○委員 高齢者の方は、ひとり暮らしになっていくとできない。

○会長 できないですね。私もそう思いました。ごみ出し自体も難しくなっているというのも、あちこちの自治体で話題になってございます。その他いかがでしょうか。

○委員 減らさなきゃ、減らさなきゃというのはまさに正しくて、そのとおりだと思うんですけども、この現状というものが上がってくる状況に、ある「感動」が必要だと思うのですね。よくここまで皆さん真面目に市の事業に従ってこられたと。それは、いくつかの外国の方が見たら、びっくりするくらいの成果だと思うのですね。これをやはり、こんなに協力していただいてありがたいということも発信するべきだと思うのですね。私の年代くらいが、例えば何かの楽しみの集まりをしますと、じゃあ、これでお開きにしましょうというときに、誰が言うともなく袋を出して、こんな細いビニールのひもに至るまできれいに分別なさるのです。驚嘆するのですね。そういうことがここまで身につけている国民、ここまで協力している市民というものに対して、市がお礼を言う立場ではないかもしれないですが、ある種の感動を持って接する必要があるのと、それからその方たちは、正しい反応を示せば、もっともっと努力してくださるような気がするのですね。

それともう1つは、この総量にはあまり関係ないかもしれないのですが、全て目方で、トンで評価されていますね。かさはどうなのでしょう。というのは、集積所なんかをちょっと見て通ると、私なんかはなるべく経済の面から小さい袋に押し込んで出そうという気持ちがあるもので、パンパンにして出すのですが、この下の袋でも十分いけるのではないかなというくらいのもので半数くらい見えるのですね。だから、かさの面で3割、4割減らすというのは、意外と指導とかで可能なことではないかと思うのです。水を切ることも、目方を減らしてください、プラスかさを減らしてくださいというアピールはどうなのかなというのが、ちょっと疑問なのです。その2つです。

○会長 今、1つは非常に減っているところをアピールしたほうがいいと。ちょっと簡単に言い過ぎていましたら申し訳ないのですが、そういうご意見と、もう1つは容量の件ですよね。これ大事な部分だと思いますが、いかがでしょうか。コメントがもしあれば。また、ちょっと多摩地区、こういう書類を書くと、大体多摩地区の中でざっとリストをつけて、第何位という話をするのですけれども、全国的な目で見れば、多摩地区府中は、もうトップクラスのほうにいるのですよね。

○委員 府中市はすごいのですよね。平成22年ですか、ガクンと減っていますよね。有料化とダストボックス廃止、個別収集といろいろ打ち立てたわけですけども、その後、横ばいみたいな感じですよ。ここを何とか打破しないと、今、その家庭系で一番ですけども、

いずれまた新たに有料化する自治体も、今年、多摩地区で2件ありますし、せっかく一番になっているわけですから、やはりこれを引き続き一番で頑張ってもらいたいと思うのです。しかし、そのいろいろと啓発事業とかおっしゃっていただいたのですけれども、確かにこの啓発は非常に重要だと思います。特に若者の啓発というのは重要だろうと思うのです。しかし、今、減っているところを維持するくらいの力にとどまるのですね、実際には。実際に1人1日当たりの排出量をガクン、ガクンと高い目標を立てて、それに向って減らしていくためには、もうはっきり言って啓発だけでは無理です。やはり実現を伴うプログラムをやはりやっていただく。ざっと拝見いたしますと、先ほどごみ収集の表がどこかに出ていたと思うのですけれども、これ17ページに出ております。基本計画素案の。例えばですけれども、ここで最近、ごみ量を1人1日当たり減らしているところを見ると、何か減っているのですね。例えば、事業系の搬入手数料を引き上げたということは、ガクンとやはり減っていますね。しかし、多摩川衛生組合の場合は非常に高い水準なので、ここから引き上げるというのはあまり現実的ではないと思います。そうするとやっぱり家庭系で、例えば他の自治体でやり始めていることとして、少しお金のかかることかもしれませんが、収集品目を増やすと。小型家電、金属。宅配便みたいな感じでという便宜は、どこの自治体も皆さんやっているのですけれども、その程度のことではだめで、やはり行政収集を新たな品目として起こしてやる。そのくらいのことをやらないと、家庭系ごみ全体を減らすということは無理ですね。また、やったところは、確かに、例えば西東京とか多摩などは、数年前にやっているのですけれども、やはり不燃ごみ、粗大ごみというあたりが減っています。はっきりと3割減、4割減というふうに減りますので、そのくらいのことをやらないとだめですよ。

ということで、場合によっては収集品目の追加を検討すると。コストの面というのもありますけれども、既存の収集体制ですね、これを見直すと。例えば週1で見ますと、集めておられるような品目はあまりないですか。あまりないのですけれども、ちょっと見直せるところがあれば見直すとかなどもちょっと含めて、一方でコストを削減できるようなところも検討をしていただいて、これを拝見して、そういうところまで取り組まないといけないのかなという気がしております。

○会長 ただいまのご意見は、ちょっと事務局のほうで整理をさせていただいて、今日の後半とか、実際は次回以降になろうかとも思うのですけれども、実際の施策などの設定についてのところに取り込ませて、少しご意見として参考にさせていただければいいのではないかなと思っています。かなり細かく、かなり大きな変革をしないと、もうこれ以上減らないのではないかなという厳しいご意見でもあるかと感じています。他にいかがでしょうか。

○委員 事業者の方にはお金もかかって大変ですけれども、容器包装プラスチックがありますね。あれを回収しているスーパーもあるのです、洗って。結局、我々も出すときは洗って、一生懸命細かくして入れますよね、ピンクの袋に。ですから、それを洗って、スーパーなんか置いてくる。トレイとか、ペットボトルとか、牛乳パックとかいろいろな面で回収してくれているスーパーもありますから、そこに容器のそれも回収してもらえると、そのスーパーでは除菌だの、いろいろ作業をするのにお金がかかると思うのですけれども、何かどこかでお金をかけていかないと、なかなか進まないような気がするのですね。

一番最初のときも、ごみ対策委員に活動委員会のようなものが出て、それは浸透して、だ

んだんそれがなくなって、今度有料になったときもお金がかかるから、みんな必死でごみを減らして少なくなりましたよね。でも、それもお金を出せば袋が買えるとなってしまって、それでまた戻った感じになってしまっているのもっと他の方法を考えないと減っていかないと思うのですよね。

○会長 店頭回収の話ということで、状況を知っておけばよろしいかなと思いますので。有料の話はよく伺いまして、有料袋になると何十円という感じになられて、多分そういうことだと思います。

他にいかがでしょうか。今の課題までのところで、いくつかご意見をいただいているところは、また次回以降のところには引き継いでいきたいと思いますが、どうでしょうか。質問とか、もしくはここに書いてある内容で、ちょっと最初のほうにございましたけれども、書き方とか、表現の仕方とかについても、ご意見があればお伺いしたいと思ひますし、もしくは、わかりにくいとかそういう質問もご指摘があれば。

○委員 厨芥で水を切ってくださいと。その狙いは何ですか。というのは、重いと物流費がかかります、運搬の。トンキロです。重さで距離というのが物流費なので、それなのか。建前の大変失礼な言い方ですけども、総量を落とす。物流費も廃棄物の中ではすごく大きいと思うのですよね。

○会長 これはひとつ、何か市の方針に、もし考えがあればお答えいただいて、今すぐまともにならないようであれば、次回にもちろん。

○委員 狙いは何ですか。別に外に言うわけではないですけど。

○事務局 当初にもご説明させていただいたところで、ごみの組成を分析した中で、やはり重さを、最終的には重さで全てを量っていく中で、今、ごみの減量をするのにどうしたらいいだろうという中で重さを量ると、厨芥ごみが多いと。厨芥の中でもどうしても水分がかなりありますので、単純に言ってしまうと水分を、皆様、お出しになる前に切ってもらえれば、それだけでごみの量も減るということになりますので、ごみの重さが減れば、当然、搬入、当然多摩川衛生組合でも搬入割等々ございます。その分の費用も減りますし、また、場合によっては水分が少しでもなくなることによって、燃やすときのエネルギー、カロリーも減ったりということもございますので、水分を切っていただいてごみを出していただくということは、トータル的にはすごく有効。当然ごみの量も減りますし、そういった環境負荷も減ります。

もちろん、最終的には、場合によっては、先ほどお話に出たかさも減るところでは、場合によっては運搬料も減るということもありますので、いろいろなところに影響があると我々は考えております。

○委員 稲城の施設のごみ処理量も総量なのですか。厨芥は燃やすごみですね。

○事務局 燃やすごみなのですね、重さで。

○委員 環境負荷の話も当然あると思ひます。1個だけではないと思ひます。

○会長 重量が上がって、CO₂のそれこそ燃料、物流といわれているコストのほうですけども、CO₂の排出量も当然重量を下げられれば減るような気もいたします。

その他いかがでしょうか。よろしければ、たくさん結構話題がありまして、もしよろしければ、後から追加で、さかのぼっても全く構いませんので、少しだけ先へ進ませていただい

てよろしいですか。

それでは、続きまして（２）基本理念・基本方針及び将来予測・目標値の設定についてというところでございます。事務局より説明をよろしく願いいたします。

○事務局 次第の１「諮問事項について」の（２）基本理念・基本方針及び将来予測・目標値の設定についてを説明させていただきます。

ここでは、資料３番と資料４番を使います。まず、資料３をご覧いただきたいと思います。「計画の方向性（基本理念・基本方針）について」でございます。１ページ目は、現行の計画の内容です。「１．目指す都市像」としては、「市民・事業者・行政の協働による“循環型都市『府中』”」です。そして、一番下にいきまして、「３．目標」としましては、「ごみ５０％削減」、「リサイクル率日本一の実現」、「すべての市民・事業者との協働による循環型社会の実現」の３本があります。そして、その目標を達成するために、真ん中の２番「検討課題」というのが４本立てられておりまして、「１．さらなるごみ排出抑制の推進」、「２．ごみ収集方法の見直しによる効果の持続」、「３．事業系ごみの減量・リサイクル」、「４．新たな資源化システムの導入」となっております。現行計画では、この「検討課題」と「目標」のもとに、３５の施策を体系的に配置しており、それを現行計画の「第４章」というところに記載してございます。これは現行のお話でした。

次に、２ページ目をご覧いただきたいのですが、こちらは今、策定しようとしている新たな計画における計画の方向性（基本理念・基本方針）の内容ですが、まず２ページで「現状の課題」を列挙し、３ページで「基本理念」と「基本方針」を記載してございます。

まず、２ページの「１．現状の課題」ですが、「１．ごみの減量の停滞」、「２．日常生活における身近な取組の不足」、「３．市民・事業者・行政の協働による取組の充実」、「４．効率性（経済性）を踏まえた安全な処理処分の継続」の４つが挙げられています。「１．ごみの減量の停滞」につきましては、先ほどの素案の説明にもありましたが、ごみ量５０％削減は達成できませんでした。総ごみ量５０グラム削減も現状では難しくなっているということがございます。まずはその現状認識を１つ目の課題として捉えたいということでございます。

「２．日常生活における身近な取組の不足」については、こちらも先ほどの素案にございましたが、分別においてわかりにくさがある品目等に対して、分別精度を向上させるための取り組みなどが必要です。

「３．市民・事業者・行政の協働による取組の充実」については、例えば食品ロスの削減等において、３者の協働による取り組みを充実させることが必要だということです。

「４．効率性（経済性）を踏まえた安全な処理処分の継続」については、焼却施設、クリーンセンター多摩川の延命化工事に注視しながら、災害発生時も含めた中間処理施設における安定的で安全な処理処분을継続することが必要だということです。

次に、３ページをご覧いただきたいと思います。２番の「基本理念」につきましては、前回の「目指す都市像」を継承して、「市民・事業者・行政の協働による“循環型都市『府中』”」を目指す中で、先ほどの各課題に具体的な施策を持って対応したいと考えております。

最後に、この基本理念を実現するための「基本方針」でございますが、次の４項目を案としております。「１．２Ｒに重点を置いた３Ｒの取組の展開」ですが、文章を読みますと「ごみ量の削減が停滞している現状を鑑み、“ごみそのものを発生させない”ことを重視し、３Ｒ

(リデュース、リユース、リサイクル)の中でも2R、リデュース(排出抑制)とリユース(再使用)の取組を重点的に展開していきます。「3Rの取組の展開」ということで、前回の話でもちょっと出ていましたが、リサイクルを決してやめるわけでは全くない。3Rの取組みを2Rに後退させるものではないというあたりは説明しながら、方針を1つ立てていきたいと考えております。

「2. ライフスタイルの変革」ですが、「市民・事業者・行政それぞれの意識が高まるよう、ごみの減量や資源化に対する情報の提供や啓発を工夫し、日常生活や事業活動を見直す行動につなげます」としています。

「3. 各主体の役割と協働」ですが、「3Rの取組は、市民・事業者・行政の各主体が自ら率先して取組み、担うべき役割を果たさなければなりません。また、より一層のごみの減量・資源化を実現するためには、主体間における連携を図り、協働による施策を展開する必要があります」としています。

「4. 安全かつ安定した処理処分の確保」ですが、「快適で安全な生活環境を維持するため、コストや環境負荷等の多様な視点からごみや資源の効率的な処理処分の確保に向けた検討を行います。また、災害発生時における安全な処理処分方法の体制づくりにも努めていきます」としています。

今回の廃減審におきましては、素案の4章以降を提示させていただく予定ですが、その大本となる「基本理念」と「基本方針」については、現状でこのように想定しておりますが、このあたりにつきまして、後ほど皆様からご意見をいただけたら幸いと存じます。

今日、委員が欠席をされているところなのですが、事前に資料をお読みいただきまして、コメントということで電子メールを先ほどいただきまして、ちょうどこのことについてコメントをいただいております。ちょっと読み上げます。先ほどの3ページの方針の一番上の「2Rに重点を置いた3Rの取組の展開」というところなのですが、前回の委員会において、会長からのコメントがありましたように、「2R」とか「3R」という言葉は、平成24年6月の内閣府世論調査等においても、この「2R」、「3R」という言葉、用語の認知度が低いことから、新規計画においても理念の冒頭に掲げるに当たり、より一層の言葉使いについての吟味が必要かと存じます。」ということでいただいております。これは恐らく前回のお話の中にありました「2R」とは何だということ、話の中では、日本語で例えばこう表現してみてもどうかというご意見があったかと思うのですが、恐らく委員もそれをおっしゃっているのではないかなと考えております。このあたりも含めて、後ほどご意見をいただけたらと思っております。

資料4の説明も続けてさせていただきます。資料4をご覧ください。「将来予測、目標値の設定について」でございます。まず1ページの「将来予測」ですが、上のほうが人口の将来予測、下のほうがごみ量の将来予測になっています。人口については今、府中市で策定中の府中市総合計画後期基本計画の将来人口暫定値を使用した推定でございますので、今後修正の可能性もありますが、今後10年間は増加傾向となりまして、平成39年度には予想では26万1,263人になるということです。下のごみ量につきましては、現行の取組みを継続した場合ということですが、全体的に微減傾向を保ちながら、平成39年には総ごみ排出量が6万1,912トンになるという、あくまでも予想です。

続きまして、その資料の2ページ、3ページをご覧くださいと思います。2ページ、3ページは「目標値」です。この目標値については、現在策定中の府中市総合計画後期基本計画の中でも、廃棄物にかかる目標値の項目が定められる予定です。この資料では、それらが4項目になることを想定していますが、それがその3項目に減る可能性があるという中で今、検討が進められているということです。いずれにしましても、ここでは上位計画の項目に合わせて、当計画の目標値を設定するということです。

なお、総合計画は平成33年度までの計画になっておりますので、この文章の5行目の部分にありますが、「平成33年度以降については、現状推移の減少率に合わせて削減目標を設定します」ということになっています。ここでは、「1. 市民1人当たりの多摩川衛生組合へのごみ搬入量」、「2. 市民1人当たりのリサイクルプラザへの搬入量」、「3. 市民1人当たりのごみ・資源の排出量」、「4. 集団回収に取り組む自治会数(団体)」の4項目です。

恐れ入りますが、まず右のページ側で「3. 市民1人当たりのごみ・資源の排出量」をご覧くださいと思います。これは恐らく今回の計画のメインの目標になる項目です。先ほどの資料の説明でも出てまいりましたが、平成27年度で631グラムになっているごみ資源量・資源の排出量につきまして、現在の減り方の推移が続くと平成33年度に604グラムになる見込みです。ただし、今、策定している府中市の総合計画のほうでは、ここを595グラムにしましょうという目標を立てる予定です。そして、その後の平成39年度には現状の減り方では590グラムになりそうですが、今回の計画では、それより10グラム少ない580グラムを目標値にしましょうということです。四角い枠内に書いてございますが、目標値は「平成39年度580グラム」です。現行のままの減り方では10グラム分目標に届かない見込みなので、その10グラムを減らすために効果的な施策を展開しましょうということです。

左のページの多摩川衛生組合とリサイクルプラザへの、それぞれへの搬入量の削減目標についても同様で、1の多摩川衛生組合搬入量の目標値は「平成39年度418グラム」に、2のリサイクルプラザ搬入量の目標値は「平成39年度132グラム」にしたいということです。いずれも、現行の減り方の継続では達成ができない数字なので、効果的な施策の展開が必要だということです。

最後に、「4. 集団回収に取り組む自治会数(団体)」についてでございますが、「平成39年度340団体」としてございます。現行の317団体から340団体に増やすことで、市内400ある自治会のうち85%が集団回収に取り組む状態にしたいということです。

そして、この資料は次が4ページで、その4ページの次のページ以降、すみません、またページが1に戻ってしまっておりますが、その1ページから始まる資料をご覧くださいと思います。今後、具体的な施策の設定を考える際に、ぜひ参考にしたい目安を「参考資料」としてそこにお示ししております。参考資料の1ページ目なのですが、例えば「1. 生ごみ処理機の活用」というところを見ますと、その一番下に「市民1人1日当たりに換算すると、3.0グラム/人・日」とあります。これは生ごみ処理機を活用する施策を実行すると、1人1日当たり3グラムごみ量を減らせる計算になる。これは予測なのですが、そういう目安があるということです。同様に、「2. 生ごみの水切り」のところでは、一番最後1日1人当たり1.1グラム、「3. 食品ロス(食べ残し等)の削減」では、最後のとこ

ろを見ますと1人1日当たり1.5グラム、「4. 詰め替え品の利用促進」では、1日1人当たり0.4グラム、「5. マイバックの持参徹底」では1人1日当たり1.0グラム、「6. 店頭回収の利用促進」では1人1日当たり0.8グラム。目安ではございますが、それぞれごみ量を減らすことができる計算になるということです。先ほど目標で掲げた目標値は、現在の減り方を維持するだけでは達成ができない数字ですので、例えばこれらの目安を使用して、参考にして、具体的な取り組み項目を考えていくということであれば、この目安が役に立つかもしれないというところでご紹介をさせていただきました。

資料3、4についての説明は以上です。資料3に出てきました「基本理念」、「基本方針」、資料4に出てきました「目標値」、このあたりについて、皆様のご意見を頂戴したいと思います。

○会長 ただいまの内容につきまして、質問またはコメントとかご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 マイバックの持参徹底ということなのですが、おむつは半透明の袋に入れて出して、おむつと張っておくと無料で持って行っていただけるのですよね。それをするためには、ちょっとマイバックを持っていかないと、今回はそのレジ袋をもらおうかな、それで孫が来たときにおむつを入れて出そうかなとなってしまうのですね。町田市では、おむつを入れる用の特別の袋を、市で無料で何枚までとかそういうことをやっているらしいのですが、マイバックの持参を徹底するということでしたら、そのようなこともちょっと考えてもいいのではないかなと。私も3回に1回はレジ袋をもらってきてしまいます。

○会長 マイバックを使ってレジ袋を削減ということは、今、よく言われることですよ。

○委員 マイバッククラブとしては、マイバックは傘でついたりして、市民の方に差し上げたりしているのですが、意外と持っている人を見かけないということがある。持っている人は、1人でいっぱい持っているのだけど、持っているのだけれどもレジ袋をもらっているのですね。

○委員 レジ袋をもらうこと自体が悪いということはないですよ。

○委員 ないです。

○委員 自分なりにリユースしていれば、もらっても差し支えないと思うのですが、それをスーパーで買っていたら意味がないですからね。

○委員 レジ袋を、マイバックを持っていないけど5円ですよと言っても、ああ、いいですよと行って、5円くらい平気で出してしまうのですね。1回5円だったらすごいと思うのだけど、何とも感じない人は、5円はそんなに高くない。

○委員 1回5円だからですよ。

○委員 1枚5円。

○委員 ああ、そうなのですね。

○委員 農協さん。

○委員 わからない。

○委員 いや、普通のお店ですよ。

○委員 そうですか。

○委員 うちのスーパーだと2円。

- 委員 2円のところもあるし。
- 委員 それを断るとポイントになるということで。
- 委員 ポイント、サミットだと。
- 委員 そればかりなので、ちょっと値段はわからなかったです。
- 委員 2円の削減に対して。
- 委員 国立かどこかのスーパーのところだと、要らないというと2円を引いてくれたり、そういうところもあるし。
- 委員 私は袋の関係をずっとしていたのですが、マイバック持参というのはお願いしたい。また、袋をもらうことも必要かなというのは、それほどの量じゃないかなと思っているのですよね。それ以上に、最近、お店でもよく言うのですが、要するにお肉や何かのトレイ、こんなものはなくしてしまえよって、店員さんに言ってくるのですよ。ビニールの袋に入れてくれれば、はかり売りなのだから、その袋で済めば、要するにトレイの分が減ると。それで各スーパーさんでそういう形を徹底していただければ、相当量のトレイがなくなるということで量も減る。あのトレイだっていくらというお金をかけているわけですから、その分が安くなれば買うほうにもメリットがあるわけですから、スーパーさんやなんかにトレイを廃止するような形の、うまい話を持っていく形ができれば、ごみ減量とこれは2つの効果が出てくるのではないかなという気がしています。
- 委員 お弁当が多いですよね、トレイが。ありとあらゆるところのお弁当があるから、必ずトレイがついているのですよね。あれを要らないからここに入れてくれと弁当箱を持っていく人はいないですね。
- 委員 お肉、魚や何かだったら袋で済むわけですから。
- 委員 そうですね。鶏肉なんかだったら、ビニールだけのというのとトレイについているのと選んでいるという話です。
- 委員 多摩のサミットさんでは、それが増えてきました。トレイを使わないで、ビニール袋にお肉を詰めたやつを販売するというのは。
- 委員 生協なんかだと、生協で買ったものについていたトレイに関しては、洗って翌週に返してくれれば、チラシも全部持っていってくれるのですよね。
- 委員 その辺も働きかけをすれば、違ってくるのではないかなという気がしますけれどもね。
- 委員 スーパーにトレイを返している人も結構多いですね。
- 委員 いますけれどもね。お店で全部開けて袋に詰めて、ごみ箱に入れているのですよね。あれを見るとなんて無駄な時間だと思うこともあります。
- 委員 汚れているから悪いなと思うので出せないというのもありますね。
- 委員 そのままじゃ悪いですよね、お肉なんかだったら。
- 委員 もう今は野菜から全部パックに入ってしまったでしょう。何でここまでしなければならぬのかなと。
- 委員 今は、家族の人数が少ないからキャベツ1個買うと大変だからと思って、刻んだ野菜とかそういうので、200円くらいだったら安いのかなかと思って。そうするとごみは出ないですね。

○委員 そういう事業者との話し合いなんていうのはないのですか。

○委員 いずれにしても、ここ数年の間に、レジ袋削減というのはものすごく進んでいますよね。結局、それ事業者にとって非常にプラスだからですよ、コスト削減にすぐつながりますからね。ということだろうと思うのですよね。私がこの府中市について、取り組みについて感じるころは、けやき並木通りのあたりはすごい居酒屋さんが多いですよ。居酒屋銀座みたいな感じで、重立ったチェーン店がほとんどあるという感じですよ。そういうところも含めまして、この新規計画、2ページ目のところですけども、参考資料のところなのですけども、食品ロス削減の取り組みを事業者さんに働きかけていただくということは、これは府中市の特性を考えると、非常に有効ではないかなという感じを受けております。

私は、最近、ちょっと調査をやりましたら、2010年代に、ここ数年の間に、全国の自治体で食べ切り協力店というような制度を始めたところが十数市区あります。ごく最近始めたところで、立川市が今年に入って始めました。それから、港区も始めています。新座市は今年中に始めるというようなことを言っていますし、府中市の場合は、とにかく飲食店が非常に多いですからね、そういうところに働きかけて、協力店の制度を用意して協力してもらおうと。小盛りメニューを用意するとかですね。

○委員 ご飯を半分にしてくださいという、50円まけてくれるところがあるんですよ。

○委員 そうですね。安くして提供していただくとか、持ち帰り、テイクアウトですね。食事によっては、テイクアウトできるようなものもあると思いますし、そういうことを呼びかけるポスターを店内に貼っていただくとかですね。そして、参加していただいたお店にとってプラスになるようなことも、市のほうでやってあげると。例えば、そういうお店をホームページで紹介してあげるとか、何かの表彰をしてあげるとか、そんな形でちょっとお店にもプラスになるような形で、消費者といいですか、お客さんのほうもできるだけ食べ残しをしないような注文をできるようにしてあげるとか、ちょっとお考えいただくといいかなという感じがします。

○会長 いくつか課題が出ておまして、マイバックですとか、店頭回収のトレーの話とか、あと食品ロスの話とかいくつか挙がっています。ご意見が今、たくさん出ていますので、それはきちっと事務局のほうで確認して記録を取っていただいているかと思えます。

先ほどの委員より、事業者との話し合いの場があるのかどうかという話で、市と事業者が何かそういうものを行っているのかなというお話だったのですけれども、その点、実際に何かそういう取り組みをされているとか、市のほうからコメントがあれば、お願いします。

○事務局 現在、具体的に、定期的にそういった事業者さんとお話合いがあるかといえば、現状ではありません。ただし、この会議以外に、ごみの市民会議というものを開催しております、その中に府中市の大手のスーパーさん、伊勢丹さんも含めて5社、6社くらいが入っている代表の方にご参加いただいて、そういった中で、やはり同じような意見が出ておりますので、我々のほうからそういう要望というのを出すこともございますし、実際、それはあくまでも市とそういった各店舗のお話でございますので、また会社としてどう扱うかというの、ちょっとそこまではなかなか難しい部分もあるのかなと思いますが、唯一あるとすれば、今、そこでさまざまな意見を、そういった同業者の会で検討していただいているという部分はございます。

○会長 ご質問のように、その目的のための会議はないのだけれども、ごみ市民会議の中で話し合われていると。

○委員 スーパーでも何にしてもサービス業だから、あまりいろいろなものを廃止してしまっても。やはり、お客さんも大事ですから。

○委員 スーパーなども、今は24時間をやめようというところも増えたではないですか。そうすると、10時までとしたら、そこに行ったときに、お店に何にもないというわけにはやはりいかないから、あったものは残るわけですよ。それをどういうふう処理していくのかということも、結構大きいのではないかなと思います。閉店1時間前になったら安売りするとかね。

○委員 さっきの若い方に対する啓発ということなのですけども、これは資料なのですけども、この文脈で若い人たちの心が動くかということ、非常に難しい問題があると思うのですね。ごみ問題というのは、本当に地べたの問題なので難しいとは思いますが、ある種のエンターテイメント性というか。今、よくテレビでライフハックというのを取り上げる番組が増えているのですね。若い人たちの耳に届くためには、若い年代の生活様式というものを知る必要があると思うのですね。今、収入がすごくみんな少なくなっていますし、食生活もきちんとしている間もないほど働かされているという現状があるわけで、その人たちが、生活のスタイルまで考え直す即効性はないのですけれども、そういう時代にだんだんこれからなっていくのではないかという希望を持っているのです。ライフハックの中身というのは、本当につまらない工夫なのですが、オリジナリティのある人たちがいろいろなことを考えている。ごみ問題だけでなく食べるもの、きちんとしたものをきちんと食べるとか、あつと言う間にできる料理だとか、それから捨てるべきものを工夫して、家の中のものにするとかって、それは一見くだらないのですけど、見ていると引き込まれるほどのオリジナリティ、エンターテイメント性があるのです。

それで、YouTubeなんかを見てみますと、女性ばかりでなくて男性の、そういうつくった動画で溢れているのですね。だから、みんなもうちょっと生活をちゃんとしたい、食生活を人間らしくしたいというのも、これから増えていくと思うのですね。そういうときに、例えば市から出すような広報でも、ライフハックに限らないのですが、こんなアイデアはおもしろいんじゃないとか、こんなことが格好いい、ごみをきちんと処理するし、栄養をきちんととって元気に生きていくことが格好いいのだというような発信ができれば、即効性はないにしても、ごみもその辺に放っていけばいいのだというようなものも、だんだん直っていくというか。全員とは言わないまでも、そういう今、現れつつあるそういう方向というのが、そうでもしていけないと、これから日本で生きて食べていかれませんからね。もう飲まずに捨て、買いたいだけ買って要らなければ捨てるということをしていたら、もう生活自体が成り立たない社会になっていますから。だから、その辺のところをよく見て、こっちはおばちゃんの文脈、プラスこれも大事なのですけれども、何かそういう彼らの生き方自体に心を寄せるようなことを通してのごみ問題も、知恵を絞る価値があるのではないかなと思っています。

○会長 私自身はなかなか勝手にコメントが出せないのですけれども、今、私どもも大学生を抱えていますけれども、確かに楽しくないとやらないというところがありますので、おつ

しゃるとおりだと思います。あと、必然というか必要性はわかっているのだけれども、取り組みがなかなか進まないというところで、今、おっしゃっていただいたようなアイデアは大変おもしろいなと。何というふうに変えていったらいいかというのは、なかなか簡単にすぐ決まるものではないですけれども、今のようなことも、ぜひ取り込んでいければいいと思います。他にいかがでしょうか。

○副会長 将来予測、資料4という項目があるのですが、この将来予測というのは、非常に難しいのですか。ただ、その将来は、こういうふうになっていくよという目安が、これで示されていると思うのです。その中で、まず3ページ目の集団回収に取り組む自治会数という形で、我々、自治会連合会といたしまして、集団回収を大いに進めているわけなのですよね。今回、この将来予測の中に集団回収に取り組む自治会数を増やそうという計画がありまして、これについては私どもも全く異存はないし、各自治会においても資源を回収することによって、ある経費なり何なりが入ってくるということであるために、積極的にやはりこれは取り組んでいきたいと考えています。

ただ、ここのちょっと今、これはミスプリントではないかと思うのですが、平成27年度317団体から「33」団体に増加になっていきますと350団体になる。これは恐らくミスプリントじゃないかと思うのですが、いかがですか。「23」団体が増加することによって、340団体になると今、思っているわけです。この85%という取り組みが、果たして妥当かどうかということになると、これは非常に難しい問題があるわけですね。といいますのは、市内には400の自治会がある。確かに400の自治会があるのですが、世帯数が100世帯以下の自治会は、全体で60%を占めるという実態なのです。ひどい団体になりますと30世帯とか、そういったところで果たして集団回収ができるかどうかという問題も、かなり問題として残っているのではないかなと思います。そういった団体が3つなり4つなり合わさって、やはり1つの団体という形でもって、集団回収に協力することによって、ある程度そこに市からの財源が加えられるということであるならば、これもまた1つの統合することによってのメリットというものも出てくるであろうと思います。そういう意味で、85%というものがいいかどうかということはなかなか難しいと思いますが、あくまでもこれは将来予測ということで、予測の中でやっていくわけですから、それはそれで1つの可能性を信じているのではないかなと思います。

それから、2番目なのですが、ごみ減量による資源化の取り組みの目安ということで、これが参考資料に載っていますけれども、なかなかその生ごみの水切りが浸透していない、なかなか進まないという中において、この水切りの数字ですね。これが1.1グラムという形のもの計算が出てきたということは、恐らく一般の人たちは水切り、水切りと言っておるけれども、どれだけ効果があるのかということについて真剣に考えている人はいないのではないかなと思いますよね。一番大きな問題点とするのは水切りがまず1番、それから2番目は食品ロスという食べ残しですね。これが1つの目安として1.5グラム。それから、3番目には生ごみ処理機の活用という形で、この1、2、3の順番に基づいて、もっとこの参考資料を大いに活用して、そしてその新規計画、要するにごみ減量の停滞に対して、どういうふうにしたらその停滞を打破できるかということも、この資料を有効に利用することによって、やはり一般の人たちにも大きな効果を、こうなりますよということが、具体的に数字として

あらわされるということ、やはり大いに活用するべきではないかなと私は考えております。その辺につきましていかかでしょうか。

○会長 ただいま2点ありまして、自治会での集団回収の点でいくつか。自治会の代表として出ていただいている、実態をよくご存じの上でのご発言です。先ほど言いました、ちょっと非常に世帯数が少ないところというのは難しいという話、ちょっと私は初めて伺ったので、ああ、なるほどなと思ったのと、それから1つご提言があった中で、複数の自治会で行うというのも1つの方法ではあるのかなと今、非常に感じました。というのは、市のほうで、自治会で自主的にやってくださいとお願いしても、今、言われたように、私たちのところはできないというときに、市のほうで、ここどこでいかがですかという方法でお願いしてみとか、いろいろな方法があると思うのですけれども、非常におもしろいなと思いました。

数字は多分間違いだと思います。「33」は「23」ですね。

それから、その後の参考資料の件です。やはりこの数値は非常にわかりやすいので、こういうものが基本計画、市民の目にとまるような形で前面に出てくると、これをやると、これだけ数値が違うのだというのがわかってくる。先ほど、前のほうでもご意見がいくつかあって、どれだけ努力しているのに、例えばいくら削減できたのでしょうかね、リサイクル資源物という話もありましたし、数字が見えてくると取り組みもますますやった成果があるのだなというのがわかると思います。ただいまの関係、もしコメント等ございましたら市のほうで。

○委員 その前に。自治会で集団回収をして、最低これだけはしないと補助金が出ませんよというのは、市であるのでしょうか。それとも、少しでも30何世帯で1年間というか、一月でこのくらい出しても補助金は出ますよというところがあるのか。もし少なくとも補助金が少なく出るのでしたら、そのところだけでもちょっと進めていかれるのではないかなと思うのですが。最低これだけ集めない補助金が出ませんよということはあるのでしょうか。

○会長 では、集団回収を。

○事務局 ただいまの集団回収の関連につきまして、ご説明をさせていただきます。

集団回収の実施に当たりましては、特に明確な規定という、数値を持っていないのでございますが、おおむね10世帯以上の団体ということで、集団回収は開始していただくことができるということになります。回収量についての規定はございませんが、月に1回以上、集団回収の回収日を設けていただくということが条件ということになっております。ちなみに余談ではございますが、先だっても、約20数世帯の自治会さんですけれども、集団回収を始めたいというご相談がございました。ただ、回収量とかを推計しますと、それほど金額的には大きくはないということでしたけれども、自治会さんの規模が小さいものですから、金額が小さくても、自治会全体に占めるウエートは大きいということで検討はしてみますという発言もございましたけれども、一方で規模が小さいということのデメリットもございまして、そこに協力している方が見えてきてしまいますので、当然、「あいつは出さない」ではないですけれども、そういう部分でなかなかまとめていくのが難しいということで、開始するに当たっては多少慎重さが必要な部分もあると、窓口で応対をしている中では見受けられました。

○会長 ただいまのご質問の趣旨はよろしいですか。では、先ほどの副会長の補助金につい

て、ご回答なりご意見をいただければと思います。

○事務局 そうですね。こちらは今回、集団回収の自治会数を増やすという目標のところでございますけれども、1人50グラム削減の中で、実はこの集団回収に回った分の重さというのですか、こちらは含まれない形になってございますので、我々といたしましても、集団回収に回った分が多ければ多いほど、ごみの回収量が実は減っていくという数値になってございます。ただ、それだけではなくて、集団回収につきましては、先ほど副会長がおっしゃられたとおり、地域の総合コミュニケーションですとか、とかく最近ではなかなかそういう自治会に参加する方がいらっしゃらないという中で、市が奨励金を出すことによってさまざまなイベント等もやるというところでは、自治会の活性化にも一役買えるのかなというところもごみ減量推進課としてはございますので、そういった部分も、ぜひともこういった制度を活用させていく中で、地域活性化というものに少しでも寄与できればというところで、今回、こういったことで加入の団体さん増加の目標を立てているところでございます。

数字につきましては、340団体ということが正しい数字でございまして、プラス「33」ではなくて「23」団体が正しいところで、訂正をさせていただきたいと考えてございます。また、参考資料のほうにつきましては、1人1日50グラム削減といっても、ちょっとイメージが湧かないというお声も確かにいただいております。我々はよく卵2個分というような表現もしておりますけれども、今後、新しい目標を定める中で、こういった具体的な数字というものを示すことも非常に重要なかなと思っておりますので、ご指摘のとおり、こういった数値等も活用させていただきながら、今後の目標設定について、市民の皆さんに説明していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○会長 他にいかがでしょうか。

○委員 目標値なのですけれども、ごみ50%削減、それとリサイクル率日本一。これはまず、いつまでにこの目標を達成しようという考えでいらっしゃるのか。それと、50%削減というのは、大変失礼な言い方ですが、中期でうまくいきませんでした。それをやるのに、具体的に何をやるのかというのが見えていない。リサイクル率日本一って、一体リサイクル率は何%か見えない。言葉としてはきれいなのですが、大変失礼な言い方ですが、まるで実感がないのかなと。

○会長 これは前の計画の数値ですね。今度、我々が準備するのはこれを改定すると。

○委員 そうですね。失礼しました。

○会長 いえ。今のあたりについて一言、申し上げます。

○事務局 ごみ50%の削減につきましては、平成25年度が最終年となっておりますので、実はもうこれは37.1%でできなかったということで終了しております。リサイクル率日本一の目標につきましては、特段、目標年度というのは現在では設定していません。数値につきましては、環境省が出している数値がございまして、ちょっとカテゴリーがいくつかあるのですけれども、平成26年度の数値でございまして、人口10万人以上50万人未満の市町村の順位がございまして、府中市は38.5%で、全国で6位になってございます。ちなみに1位はどこかと言いますと、小金井市で49.2%です。

○委員 小金井市は数値がおかしいですね。

○事務局 近隣で申し上げますと、4位の国分寺市が39.0%ということで、人口10万

人以上50万人未満の都市の枠でございますが、府中市は多摩地区では3位ということでございますけれども、先ほど申しました数字のとおり、小金井市とは11%ほどの差がございますので、現実問題としてリサイクル率日本一をこれ以上実現するのは、なかなか難しい状況ではあると思っている中でも、全国6位でいる府中市の市民の皆様には、非常に感謝をしておりますし、あまり無理な目標を掲げてもなかなか難しいところがありますので、今度の計画におきましては、このあたりは少し、先ほどの、今までの3Rから2Rにというような言葉もございますので、リサイクル率日本一というところは、若干見直していきたいというのが市としての見解でございます。

○委員 失礼しました、既存の計画ですね。こちらのほうが、1人当たりとかそういう方向に持っていこうということで。

○事務局 そうですね。

○会長 今、おっしゃっていただいたように、前回のときは、ないわけではないのですけれども、ご指摘のように目標設定値というものは、おっしゃるとおりで何となくよくわからない、抽象的な表現に実は前はなっていたということで、今回はより具体的な方向にいきたいと。まさにおっしゃっていただいているように、まだ確定しているわけではございませんので、後ろのほうも今回の新しい計画の目標設定については、ただいまいただいたご意見なども十分に反映して、わかりやすい目標ができたらいいなと感じています。

○委員 今度の土曜日に環境まつりがあるのでございますけれども、そこでフリーマーケットとかも出るのですが、要らなくなったものを自分の家から持ってきて、欲しい人に売るという形で、それでどのくらいのごみというのが減るのか。100店舗くらいのお店を出すのですよね。うちの娘なんかは、子どものものはみんなお友達で要らなくなったら、全部そっくりもらって、また要らなくなったら返したり、次に下の子が生まれたりしたらそっちへ回すとかして、買わないですませてきましたけれども。前は、シンガポールの人とか、インドの人とかは、フリーマーケットみたいにすると、もうそれを目当てに来るのですね。半額になるのを待ってたりして、袋を200円で買うと詰め放題というので、共同作業所などがそういうのでやると、結局、ただでみんな市民からもらって、残してしまうと結局それを売らなければいけない。ごみ業者に買い取ってもらうとかするので、200円の袋で全部持っていったらもらったほうが安いというところでしたのも、もう30年くらい前ですね。

今は、フリーマーケットとかも結構やっている人はやっているのですね。だけれども、結局6月3日の環境まつりなんかを見ても、府中市で、味の素スタジアムで何かがあったり、自衛隊で何かがあったりというところで人が来ない。同じ日にいろいろな行事が府中市の中であって、本当に、よっぽどそういう環境とかエコとかに興味のある人というのが結構少ないのではないかなと。新聞や広報に出ていたりしているのですけれども、どのくらいの人に来てくれるのかなというところです。

○会長 環境まつりということですが、最初に今日、今後の基本方針などにライフスタイルの変革とか、日本語で言うと再利用のフリーマーケットの件とか、そういうところを進めていこうということについては、非常にマッチしている話ですよ。

○委員 ごみ回収車も、車とかそういうのを持っていったら、興味がある人は、こういう車でこういうのを回収しているのだとか。

○会長 環境まつりとかで展示をしてはどうかというご意見。

○委員 もう遅いですね。

○会長 次回はということで。

○事務局 今回、収集車を展示しますよ。

○委員 収集車を展示するからね、車に興味ある子が、子どもたちが来ればね。でも、他のところにいってしまうかも。味スタじゃないですね。

○事務局 府中公園です。

○委員 府中公園。一番近いのですけど。味スタに行くよりは近い。

○会長 今、いただいたような意見を、ぜひ少しずつ文章の中にうまく込めれば、再利用とか、リユースとかと書いても、カタカナだけではない。だから何みたいな話ですけども、おっしゃっていただいたような、例えば府中とかだと環境まつり等でやっているフリーマーケットというようなことを書いてみるとか。

○委員 横文字を使わない形をとったほうがいいのではないのか。みんなやっているのは結構なのですけれども、若い人はわかっていますけれども、年配者の方はわからない方も結構いるのですよね。3Rって何だよって結構聞かれますからね。その辺を日本語で簡単に書いておけば、そのほうが年配者にはわかりやすいのではないかなという気がすると思うのです。3Rというのをうたっても構わないのですけれども、その説明でよりわかりやすい言葉で書いておくというのも必要かなと思います。

○会長 委員のご意見も非常に大事だなと思っております。漢字表記は誰でもわかるように、子どもも、小さい子でも比較的わかりやすいのではないかなと思いますので。

他はいかがでしょうか。今日、もちろん出尽くさないとしますので、また次回も、まだ比較的早い段階でまた次の会議をやるようなことを伺っていますので、いかがでしょうか。でも、たくさん言っていておいたほうがいいので、今日、もしまだご意見があればお伺いしたいなと思っています。

○委員 先ほどの、この基本計画素案の18、19ページのあたりで、新しいH28の数字が617グラム、これはものすごい減量の仕方ですよ。これって、主な要素としてどんなことが挙げられるのですか。

○事務局 そうですね、今年で14グラム減少しているということでございますけれども。

○委員 14グラム、大きいですよ。

○事務局 ちょっとこれ速報値なものですから、まだ詳細に分析しきれていないところがございまして、またその点、分析した中で、ちょっと次回になってしまうのですが、ご回答をさせていただければと思っています。

○委員 わかりました。

○会長 結構大きいですよ。私も、この間ちょっとお話を伺ったときに、おっと思いました。他にいかがでしょうか。さかのぼっていただいても結構ですし、あと先ほどの部分、今後、新規計画の基本理念の中に書いてあることとか、それから基本方針で立てている項目建てとか、中身も含めてタイトルの文字の表現ですね、このあたりもご意見があれば伺っておきたいなと思いますが。例えば基本理念の一番省略形というか、タイトルになるのが、下の「市民・事業者・行政の協働による“循環型都市『府中』”というのがキャッチコピー、そ

ういう言葉なのですが、このあたりなんかもいかなかなというところで。特にまだ変更はしていないのですけれども、何か比較的わかりやすい目標を、誰がやるのか、どこを目指すのかというのを短く書いている形かなと思っているので、こういう表現も含めて何かコメントとかございましたらお受けしたいと思います。もう開始して1時間40分くらいになっていますので、無理に今、出さなくても大丈夫ですので、だんだんちょっと疲れてきたということもあるかと思しますので、もしも今日、言い残しておいたほうが良いなということがあれば、お受けしたいなというところがございます。

もし大体出尽くしたかなというところがございましたら、資料5についてのご説明。これ次回協議に向けてということになっています。このあたりのご説明をお願いします。

○事務局 それでは、(3)の「次回協議に向けて」ということで説明させていただきます。お手元の資料5をここでは使います。

この資料5は、次回の審議会に向けた参考資料としてご覧いただきたいものでございまして、本日この内容について、この場で実質的な審議をお願いするというものではございません。

次回の審議では、素案の後半部分を提出させていただいて、それを叩き台にして議論をお願いしたいと思っておりますが、今回の資料5「施策の構成について(案)」については、素案に盛り込むことになる施策の構成について、現段階の粗々の案をまとめたものです。現行の計画では、35の施策を持っております。事務局では、今後これらの施策を取捨選択して、必要な修正を加えつつ、新たな施策も追加する作業を行ってまいります。この資料5では、まず新計画の基本方針4項目、表面が1項目め、2項目め、裏面が3、4となっていますけれども、この4項目のもとに現行の35の施策を割り振って、それぞれ必要な加筆修正を加えてみたところなんです。青が削るところ、赤がつけ加えるところなんです。そして、新規施策として緑色がついているところなんですけれども、例えば「食品ロスの削減に向けた取組」とか、裏面にいきまして「資源ごみの持ち去り対策」なども追加しているということです。

先ほど委員からも出てまいりました食品ロス等の話で、飲食店への働きかけのようなお話もありましたが、緑の「食品ロスの削減に向けた取組」の中に、そのあたりについて出てくる、このあたりに配置することになるのかなというところなんです。

さらにいくつかの施策の内容について、簡単にふれさせていただいてはいますが、表面「1. 2Rに重点を置いた3Rの取り組みの展開」では、下から3番目に「集団回収の拡充」というのがあるのですけれども、その中に「集団回収に取り組む自治会数(団体数)を増やす取組の検討」を追加したいというところなんです。先ほどの基本方針、基本理念に対応する内容ということになってございます。また、裏面の「4. 安全かつ安定した処理処分の確保」というところでは、下から4番目に「中間処理施設等の非常事態時における相互支援」というところがあるのですが、その中に「災害廃棄物処理計画の策定を検討する」という文章をつけ加えたいと考えています。これは、今回、市が作成しようとしているのが一般廃棄物処理基本計画なのですけれども、市町村がこの計画を策定する際に、マニュアルとしてくださいということで、国が指針を示しております、この指針が去年の夏に実は改定をされております。その改定の中では、「災害廃棄物処理計画」これを進めてくださいと、つくるように検討をしてくださいという内容が盛り込まれたので、今回、この議案の中にそれにも取

り組んでまいりますよということで、1文つけ加えたいという。つけ加えるのであれば、そのあたりに入ってくるかなということで、この表に加えさせていただいております。

あとは、実は府中市は、ごみ減量推進課のほうで今年度から3年間の時限措置ということなのですけれども、「生ごみ処理機の購入費補助制度」というのが課であるのですけれども、3年間限定で補助率を引き上げるということを今、実際に行っております。このようなことを計画の中でも入れてみたらいいかなということで、この資料では「2. ライフスタイルの変革」というところの一番上に「生ごみ減量の推進」というところがあるのですけれども、例えばそういうところで、この補助率を上げていますよということも含めて説明をしてみてもいいかなと今は考えております。文章はまだできていないのですけれども、そういうところにつけ加えてもいいかなと考えております。

この資料5は、現段階の事務局の作業の進捗ということで、参考としてお配りさせていただいたものでありまして、全く決定された内容ということではございません。事務局では次回の審議会でこのあたりのことを素案の中でお示すべく、この資料をベースに作業を進めてまいります。委員の皆様におかれましては、この資料を今日はお持ち帰りいただいて、お読みいただけたらありがたいと思います。もし、何かお気づきの点等がございましたら、後日でも構いませんのでご指摘いただけたらありがたいと思いますので、よろしく願います。

○会長 この内容については、今、事務局でお話がありましたように、お持ち帰りいただいて、少し目を通していただいて、何か不足するような点、もしくは何かわかりませんねということがあったら、事前に聞いていただいてもよいかなと思っています。具体的な細かなところは次回、またこの部分に肉づけがされたものが資料として出てくるということでございます。

【その他】

○会長 それでは、最後のその他になります。ここで言い残したようなご意見とかがもしあればお伺いしますが、いかがでしょうか。

○委員 せっかく委員やっているのだから、こういう情報を得たのを市民に広げるとか、友達に広げるといふか何かできたらいいなと思いますけれども、なかなか難しい。

○会長 今、作業中の資料を出したいということですか。

○委員 そういう意味ではなくて、基本的なもので構わないので。こういう委員をやって何回かやって、こうだったよというのを。

○会長 そうですね。

○委員 お店に直接行くわけには行かないので。

○会長 ぜひせっかく1年間、まだ終わりませんが、1年近くかけてしっかりやっていくわけなので、身についたこととかお伝えできる可能性があるものは、周りの方にお伝えいただければ。

○委員 マイバックのことはずっと言っているのですけど浸透しないです。

○会長 私もマイバックを自分のかばんの中に入れてあります。買い物をするときは使っています。ただ、稀に入りきらない場合もあるので。

○委員 1つではだめですね。やっぱり2、3個持っていないと。

○会長 その他、事務局から何かございますでしょうか。

○事務局 次回の第4回審議会のお知らせでございます。突然で申しわけないのですが、次回の日程なのですが7月31日月曜日、同じ時間ということで設定をさせていただきたいと思っておりますので、開催通知は近日中に発送をさせていただきたいと思っておりますが、ぜひご予定いただければありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○会長 本日は長く2時間弱、もう1時間50分過ぎてしまったのですが、かなり細かな部分をたくさんいただいております。私のほうでも少しメモを取っておりますけれども、それぞれ非常にいいご意見ばかりで、市のほうできちっと議事録をつくって、それから意見を集約して、今後、整理をしていただけるのではないかなと思っております。食品ロス関係とか今、話題にもなっておりますし、それから、エコバックの話、トレーの話は過去からずっと長く問題になりつつ、もちろんどんどん改善していっているのですがけれども、まだまだ取り組みをしなければいけない点もたくさん出ているかと思っております。そのあたりについて意見を集約して、いい次期計画ができるようになればいいなと感じております。

それでは、これで本日の議題は全て終了させていただきました。

これで閉会させていただきたいと思っております。お時間、長時間にわたりご議論をいただきましてありがとうございました。

午後8時52分閉会